



ましきな

校是：向学 誠実 開拓
 与論町立那間小学校
 TEL 0997-97-2278
 FAX 0997-97-4950



「みんなちがって みんないい」～12月は人権月間～

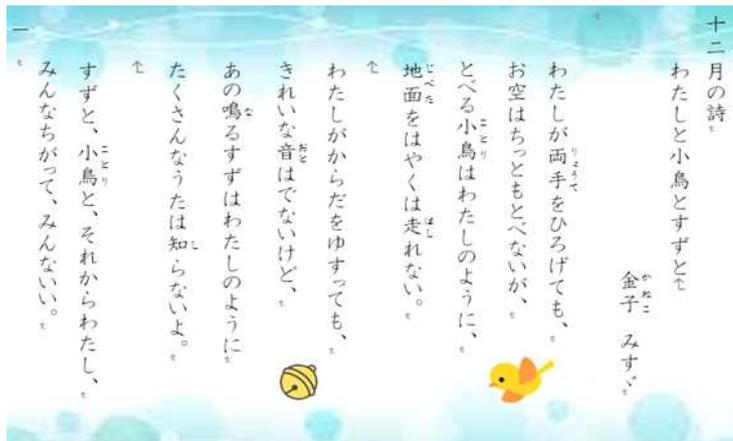
那間小学校 校長 有留 雄一郎

師走になりました。間違いではないが、まだ若かりしとき先生が忙しく走り回るから師走といふのだと安直に捉えていた。諸説によると12月は僧侶が各家庭を訪れて読経や仏事を行う時期だったため僧侶たちが忙しく各地を駆け巡ることから、この月を「師が走る」月という意味で「師走」と称されたと言われている。いずれにせよ慌ただしさを感じているのは事実である。

12月と言えば人権月間。那間小では12月4日から9日までを人権週間とし、12月10日は世界人権デーである。先日、家庭教育学級でも与論町人権擁護委員の方々に来ていただき保護者を対象に人権について講話をいただいた。

さて、那間小の今月の詩は「わたしと小鳥とすずと」である。3年生国語の教科書巻頭にも掲載されている金子みすゞさんの詩である。私は伊佐市の小学校に再配として赴任したとき、同和推進教員の先輩からこの詩を教えていただいた。

みなさん御存知かとは思いますが、少し金子みすゞさんについて触れてみたい。1903年(明治36年)に山口県に生まれ、大正末期から昭和初期にかけて活躍した日本の童謡詩人であり、1930年(昭和5年)に26歳の若さで亡くなっている。その当時活躍した作家には、北原白秋、三木露風、野口雨情、若山牧水や女性では与謝野晶子等、著名な方ばかりである。金子みすゞは500ほどの作品を残しているが、今のように世の中に広く知られたのは1980年以降ということである。



「わたし」と「小鳥」と「鈴」の全く異質のものを対象として、それぞれのちがいを向けながらそれぞれのよさを10行に凝らしたこの詩。「人として何を大切にしていかなければならないか」読む人の心に響く。当時まだ女性が生きづらい世の中だったかとも思う。その厳しかった時代にこの若さでこのように感じ、考えることができたことに深く感銘を感じる。このほかにも多数の心に響く詩がある。東日本大震災直後にメディアで流れていた「こだまでしょうか」もその一つであり、那間小の子どもたちも10月に暗唱し、全員がしっかり覚えている。

那間小70名の児童にもそれぞれの個性があり、それぞれのよさがある。兄弟姉妹でも違いがある。みな同じではなく、生まれた資質・性格や育ってきた環境によって、様々なものの考え方を持っている。どの子が素晴らしくて、どの子が素晴らしくないか比べることは意味のないことで、どの子もみんないい。つまりみんな一人一人がすばらしいということ。お互いの違いを認め合いながら敬愛し合うことが肝要なことと思う。価値観の違いから他を批判したり、陰口をたたいたり、心ない言葉で相手を傷つけたりすることがない、いじめのない学校、一人一人を大事にする学校を目指し、そうあってほしいと願うのは自分だけではないと思う。この詩を親子で一緒に声に出して読んでくれたらありがたい。

早いもので12月も折り返し。コロナ禍や熱中症、そしてインフルエンザ等、気をもむことも多い1年でしたが、子どもたち一人一人が活躍することが多かった1年でもありました。本校の教育活動に皆様の御支援や御協力をいただき、令和5年をあと2週間ほどで終えます。心から感謝申し上げます。ありがとうございました。少し早いですが、どうぞよいお年をお迎えください。

12月

- 16日 (土) 第15回カルタ大会
- 22日 (金) 終業式・大掃除
- 27日 (水) ヨロン・おきなわ音楽交流祭
- 28日 (木) 仕事納め



1月

- 4日 (木) 仕事始め
- 9日 (火) 始業式・生徒指導強調週間(～13日)

- 12日 (金) 学級PTA
- 13日 (土) 土曜授業
- 15日 (月) 給食旬間(～31日)生産者との交流会
- 16日 (火) 鹿児島学習定着度調査(～17日)・ぐーじゃー号
- 19日 (金) 中学校入学説明会
- 30日 (火) 避難訓練(地震)
- 31日 (水) 校内持久走大会

